

論文内容要旨

※整理番号	7	(ふりがな) 氏名	(やま ぐち とよ 子) 山 口 豊 子
修士論文題目	痴呆性高齢者の在宅介護の状況分析と援助のあり方		
<p>研究目的</p> <p>本研究は、在宅痴呆性高齢者の介護者を対象に、介護のプラスの側面を見つけ、介護受容の要因を明らかにする。看護職として、要介護者の状況をふまえた痴呆性高齢者の介護者の援助のあり方について検討を加えることを目的とする。</p> <p>方法</p> <p>対象は湖西地域の2町で在宅訪問活動を行っている保健婦およびホームヘルパーに事前に依頼し、調査に同意した介護者18名である。介護の決心、介護上の困難、介護している理由、介護のプラス面等の質問紙による聞き取り調査を行った。そのうち、在宅介護の決心「有」と回答のあった2名には、再度6か月後、介護のプロセスに焦点を当てた面接を行った。</p> <p>結果</p> <p>介護をしている理由は家族重視の考えと社会的規範等の心の葛藤のなかで行われていた。家族の支えにより精神的安定が得られていた。また、介護者の自己実現を図るために、本人の努力はもちろんのこと周囲へも積極的に効果的な対処行動がみられた。また、介護の非受容群には精神的・疲労感、介護上の困難が強く、受容群には痴呆性高齢者への愛着、介護によるプラス面の認識が高くみられた。</p> <p>考察</p> <p>介護受容の意思は、痴呆性高齢者・介護者・介護環境の一次的要因と周囲からの介護役割承認の二次的 要因との関連により決定していることを認めた。介護者の自己実現に向けた生活環境の整えが必要である。痴呆性高齢者とともに介護者の価値観をも尊重することが援助の基本である。</p> <p>総括</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護受容群の介護者は、介護のプラス面(利益)として介護者の役割の認知、充実感、能力を引き出す機会として捉えていた。</li> <li>2. 非受容群では、精神的・身体的疲労感、介護上の困難が強く、受容群では痴呆高齢者への愛着、介護をすることによって自己啓発につながり需要要因が明らかになった。</li> <li>3. 介護受容の要因として、痴呆性高齢者・介護者・介護環境さらに周囲からの介護役割承認の関連により決定していることが認められた。</li> <li>4. 介護者への援助のあり方として、介護者の自己実現に向けて環境を整えられるよう支援し、生きがいのある生活ができることが介護受容を支える援助の重要性として示唆された。</li> </ol>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字以内)  
2. ※印の欄には記入しないこと。